51 編届け、わたしの声

4 月 9 日にレポートしたが、嬉しい続報が朝日新聞 7 月 29 日夕刊により届いた。リードから―　脳性まひのため寝たきりのベッドで詩を書き続けている女性の詩集が完成した。全 51 編。昨秋に 20 歳を迎え、ボランティアの協力により仕上がった。「わたしのしをよむすべての人たちに　わたしがたちなおったように　あきらめずにいきてもらいたい」。末尾に記した詩は、読み手にこう呼びかけている。

朝日新聞（夕刊）　2015年（平成27年）7月29日　水曜日

51編届け、わたしの声

脳性まひの20歳女性 詩集完成

じっさいのじぶんそのものを あいそう

脳性まひのため寝たきりのベッドで詩を書き続けている女性の詩集が完成した。全51編。昨秋に二十歳を迎え、ボランティアの協力により仕上がった。「わたしのしをよむすべての人たちに　わたしがたちなおったように　あきらめずにいきてもらいたい」。末尾に記した詩は、読み手にこう呼びかけている。

東京都板橋区の自宅で両親と暮らす堀江菜穂子さん。手足はほとんど動かず、言葉は話せない。特別支援学校の高等部時代からノートに詩を記してきた。詩集に載せたのは、二十歳の誕生日前後の作品が大半だ。「命についての考えや、生活の中での喜怒哀楽を伝える作品が多い。タイトルは「さくらのこえ」。制作のきっかけをくれた女性の好きな花を選んだ。イラストはほとんど入れず、シンプルな形にした。

堀江さんの詩集「さくらのこえ」

詩集をつくった堀江菜穂子さん＝東京都板橋区、川村直子撮影

◆あるがまま
いまのじぶんは　いまのまま
いまのままよりもっとよくみせたいと
だれもがおもう
でもよくみせようとすると　へんになる
ほんとうのすがたとは　かけはなれてしまい
もはやじぶんではない
あるがままのじぶんをうけいれる　ゆうきをもとう
じっさいのじぶんそのものを　あいそう
（2014年8月14日）

◆わくわくどきどき
わくわくしててもても　ドキドキしててもても
わすれちゃいけないことがある
それはいつもありがとう
たのしすぎると　わすれがちだけれど
みんなこれもだれかの　おかげ
わくわくしててもわすれない
ドキドキしててもわすれない
そのかんしゃのきもちがまた
つぎのわくわくドキドキを　つれてくるよ
（2014年9月6日）

タイトルは「さくらのこえ」。制作のきっかけをくれた女性の好きな花を選んだ。イラストはほとんど入れず、シンプルな形にした。「しはよむ人によってかんじかたがちがう。えがあるとそれにせいげんされてしまうため」という。

4月に朝日新聞で堀江さんの詩作を紹介。詩集を望む声が高まっていた。ボランティアで詩集の編集作業をした東京都目黒区の佐藤昌子さん（76）は堀江さんの詩について、「たくましさと明るさを感じる。多くの人に知ってほしいと思った」という。

A5判で60ページ、1冊部を発行した。税込み500円で、別途送料が必要。

問い合わせは、佐藤さんが理事長を務めるNPO法人関東シニアライフアドバイザー協会（03・3495・4288）。協会ホームページ（http://kanto-slaco.com）でも申し込める。（北村有樹子）

新聞に掲載された詩を一編紹介したい。いまの私自身を考えさせる詩だ。

あるがまま

いまのじぶんは　いまのまま　　いまのままよりもっとよくみせたいと
だれもがおもう　　でもよくみせようとすると　　へんになる
ほんとうのすがたとは　　かけはなれてしまい　　もはやじぶんではない
あるがままのじぶんをうけいれる　　ゆうきをもとう
じっさいのじぶんそのものを　あいそう　　2014 年 8 月 14 日

この記事を読んで、詩集を早速メールで注文した。

（2015 年 7 月 31 日）